

人間社会研究科 指導計画

1.研究科概要	<p>《人間社会研究科 修士課程》</p> <p>■人間学専攻</p> <p>臨床心理学コース</p> <p>臨床心理学の専門家として様々な困難や苦痛を抱える人に寄り添い、社会に貢献できる能力を備えた人材を育成します。そのために必要な公認心理師、臨床心理士等の資格取得を目指します。</p> <p>人間行動学コース</p> <p>心理学と生命科学の専門的知識に基づく人間理解の観点から、社会の諸問題の解決に貢献する人材を育成します。</p> <p>言語聴覚コース</p> <p>「職能教育と学問の両立」を理念に掲げ、言語聴覚療法を人間学の上に位置付け、幅広いリベラル・アーツを備えた言語聴覚士の養成を目指します。</p> <p>■実践福祉学専攻</p> <p>高度な専門知識の修得と実践知の理論化により、「人」と「社会」に対する深い洞察に基づく専門的倫理性を持ち、社会福祉の現場で必要とされる最新の各種援助技能等を習得し、指導・管理能力に秀でた社会福祉専門職業人を養成することを目的とします。社会構造の劇的な変化や不安定化に伴い複雑化する福祉問題に対して、その多様化・複雑化する問題を理論的に分析する力、実践現場と当事者支援に立脚した解決方法を導き出す各種援助技能の理論的知識の習得とその内面化、更に次世代の社会福祉組織における管理・指導についても最新の理論を習得しその実践を図ることができる力を涵養し、当該分野における現代的ニーズに応える、研究力を兼ね備えた専門性の高いソーシャルワーカーを育成します。</p> <p>《人間社会研究科 博士後期課程》</p> <p>建学の精神に基づいて人間を深く理解し人間尊重の立場に立った研究活動を行い、人間の精神と心理身体機能と社会行動とを総合的に考察できる高度の研究能力を持つ、臨床心理学をはじめとする心理学の専門家および生命科学の研究者を育成します。</p>
2.取得可能学位	<p>修士（臨床心理学） Master of Clinical Psychology</p> <p>修士（人間行動学） Master of Human Behavioral Science</p> <p>修士（言語聴覚学） Master of Arts in Speech Pathology</p> <p>修士（社会福祉学） Master of Arts in Social Work</p> <p>博士（学術） Doctor of Human Studies (H28 入学生まで)</p> <p>博士（人間学） Doctor of Human Sciences (H29 以降～)</p>

3-1：指導計画 修士課程（博士前期課程）		社会人1年制短期コース	通常（2年）	
審査種別：		修士論文・特定課題研究 ※コースにより異なる		
1年次	4月（入学）	研究科各コースとも年次の初めに、研究の内容に基づき、指導教員及び必要な場合には副指導教員を決定する。指導教員は大学院生と話し合っ双方の合意のもと研究指導計画を検討する。※コロナウイルス感染防止のための大学授業方針に従い、計画が変更されることがあります		
	4月中旬～ 5月上旬	指導教員・題目届の提出（MUSCAT 通知） 学生→指導教員へ提出		
	7～9月	修士論文（特定課題研究演習）中間報告会へ出席		
	11月	様式、論文審査願の確認（MUSCAT）	修士の研究に必要な心理学等の知識の習得、文献研究、研究手法の学修	
		主査・副査の決定（研究科委員会）		
	1月	修士論文（特定課題研究）の提出		
	2月中旬	最終試験		
	2月下旬	公聴会		修士論文公聴会への出席
	3月	修了判定（研究科委員会）		指導教員のもとで個別研究指導
	3月（修了式）	学位記交付		
指導教員が継続的に、院生それぞれの研究の必要に応じて指導を行う。必要な場合は副指導教員を設定し、研究指導に当初から参加するものとする。指導教員、副指導教員が連携しつつ、入学当初から年限内に論文作成が可能となるように指導を行う。				
2年次	4月中旬 ～5月上旬	/	指導教員・題目届の提出（MUSCAT） 学生→指導教員へ提出 倫理審査申請書(研究計画書を含む)を作成・審査 ※倫理審査については、研究内容により異なる	
			7～9月	修士論文（特定課題研究演習） 中間報告（コメントとりまとめ及びフィードバック）
	11月		様式、論文審査願の確認（MUSCAT） 主査・副査の決定（研究科委員会） 修士論文（特定課題研究）の仮提出	
	12月		公聴会 修士論文（特定課題研究）の清書許可の判定	
	1月		修士論文（特定課題研究）の提出 最終試験	
	3月		修了判定（研究科委員会）	

	3月（修了式）	学位記交付
	<p>論文題目を5月までに提出し、研究の見直しを行った場合は、随時研究指導計画書を再提出する。指導教員が継続的に、院生それぞれの研究の必要に応じて指導を行う。必要な場合は副指導教員を設定し、研究指導に当初から参加するものとする。</p> <p>指導教員、副指導教員が連携しつつ、入学当初から年限内に論文作成が可能となるように指導を行う。1月中旬に修士論文を提出し、2月上旬までに審査を行う。</p>	
3-2：指導計画（博士後期課程）		
	審査種別：	博士論文
1,2年次	4月（入学）	4月から5月初旬：研究の内容に基づき、指導教員及び必要な場合には副指導教員を決定する。
	4月中旬～5月上旬	指導教員・研究課題及び研究計画書の提出（MUSCAT 通知） 学生→指導教員へ提出
	7～9月	中間発表
	9月～2月	博士論文の作成に資するレポート作成方法などの指導
	～2月下旬	博士論文公聴会への出席（2, 3年生発表の公聴）
	<p>1年次</p> <p>4月～5月初旬：研究の内容に基づき、指導教員及び必要な場合には副指導教員を決定する。</p> <p>5月上旬まで：大学院生は指導教員との話し合いを行い合意のもと、修業年限内での論文作成が可能となるよう「研究計画書」を作成する。</p> <p>5月上旬までに指導教員は研究指導計画書の写しを大学院事務担当まで提出する。指導教員は入学当初から年限内に論文作成が可能となるように指導を行う。研究計画書には、論文作成に至る系統かつ具体的な計画を記載する。</p> <p>※コロナウイルス感染防止のための大学授業方針に従い、一時的に計画を変更するが、今後、さらに変更もある。</p> <p>2年次</p> <p>2月：各研究科において研究報告を行い、進捗状況を確認する。</p>	
3年次	4月中旬～5月上旬	博士論文提出予定の届出（MUSCAT 通知）
	8月	博士論文提出案内 様式・提出日時等（MUSCAT 通知）
	10月	博士論文の提出 主査・副査の決定（研究科委員会）
	12月	博士論文の最終試験
	～2月下旬	公聴会
	3月	修了判定（研究科委員会）
	3月（修了式）	学位記交付
<p>4月から5月初旬：2年次までの学位論文指導の成果にもとづき、3年次の授業履修開始までに指導教員との協議を経て、計画書の確認と見直し等を行う。</p> <p>5月中旬から10月：これまでに助言、指導を受けてきた事項を十分に考慮し、学位論文提出期限までに学位論文の加筆修正を行うとともに、主論文・副論文が整っていることを確認する。</p>		

	10月：博士論文提出
	12月：博士論文公聴会、論文審査、口頭試問